



# スキー協通信

東京都勤労者スキー協議会

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2大住ビル4F 03(3971)4144  
ホームページ: <http://www.tokyoskikyo.org/> E-mail: [info@tokyoskikyo.org](mailto:info@tokyoskikyo.org)

No.385

発行

2016.8.1

発行責任者・出崎福男

## スキーの楽しさを広げよう!! 東京スキー協第49回総会開催

6月19日(日)、板橋区の清水地域センターにおいて東京スキー協第49回定期総会が開催されました。

参加者は65名(役員28名、代議員35名、傍聴2名)、来賓として、共産党都議の徳留道信さん、新日本スポーツ連盟東京都連盟理事の大野文明さん、全国スキー協理事長の小川洋さんが出席、激励と連帯の挨拶を頂きました。議長など総会役員を選任後、東京スキー協市川正幸会長の挨拶、出崎理事長から48期活動報告、及び49期活動方針案の提案、吉田副理事長から48期決算報告、及び49期予算案の提案を受けて討論に入りました。



討論では17名から20回の発言があり、その後の採決により全議案を賛成多数で可決・承認しました。最後に役員及び理事の選出を行い閉会しました。

以下に、市川会長の挨拶、来賓挨拶、出崎理事長の討論まとめ、及び討論における発言について、それぞれ要旨を紹介します。



### 目次

第49回定期総会 報告 .....	1-9頁
連載「私たちはこんなクラブです!」第16回 .....	10頁
ニュージーランドヘリスキー紀行 .....	11頁
Information/8・9月のカレンダー .....	12頁

## 東京スキー協市川正幸会長の挨拶



おはようございます。東京スキー協の会長を務めて3年になります。

昨年は大変雪が少なく、いろんな行事が滞りました。近年、地球温暖化などにより日本列島に雪が少なく、スキーを楽しむ我々

にとって、今後どのようにスキーが楽しめる状況を作っていくのか、1人ひとりがそれぞれの立場で世の中のあり方を含めて考えていかなければならない時代になって来ているのかなと思っています。各クラブの中で、これから行事を組んでいくことと思えますが、ただ単にクラブ行事を追求するだけでなく、社会的な面にも目を向けながら進めていく必要が出てきていると思います。

より良い活動ができるように、本日の総会において有意義な意見を出して頂きたいと思っています。よろしくをお願いします。

## 来賓挨拶

### 徳留道信さん（日本共産党東京都議会議員）



おはようございます。日本共産党の東京都議、ここ板橋選挙区選出の徳留です。本日は地元においていただき大変ありがとうございます。総会の議案書を読んでみますと、板橋のチームスポーツ板橋という

クラブが新しく加盟したということで大変うれしい話でございます。

私たちはずっとスポーツは国民の権利ということで、国会の議員立法でスポーツ基本法ができた時も頑張ってきましたし、東京都議会でも4年後のオリンピック・パラリンピックをめざして、一面ではオリンピック事業などと言われて、形を変えた無駄な公共事業みたいな見方もあるのですが、やっぱりスポーツが権利であるように、皆さんもご存じのローガンになっている『いつでも どこでも 誰もがいつまでもスポーツを』という合言葉で多くの都民、国民の皆さんがスポーツに親しんでいくということが、健康増進、或いは健康寿命の延長になって、本当に社会全体が活性化していくように、スポーツがもっと普及できればいいなと思っています。

今日の総会を通じて、皆さんの組織がますます発展され、スポーツ愛好者の皆さんの活動が広がって行くように期待して連帯の挨拶とさせていただきます。

### 大野文明さん（新日本スポーツ東京都連盟理事）



今日はこんなに沢山の方が集まっておられ、これがスキー協の活発な活動の源だなと実感しました。

私はバドミントン協議会の事務局長と都連盟の中の荒川区連盟の事務局長をやっています。荒川区連盟は、まだ非常に小さい区連盟で、5年前に発足して、ようやく組織拡大に向かう状況になってきたところです。もしスキー協のクラブで荒川区が中心のクラブがあれば、区連盟に加盟して頂き、一緒にスポーツ民主化の活動を進めて行ければと思っています。

新日本スポーツ連盟の良いところは、種目を超えての協力ということではないかと思っています。スキー協は都連盟の中心として、活動を支えて頂いている。今後も活発な活動を期待しています。

いま時代の流れが大きく変わろうとしているのではないかと感じています。その変化をしっかりとらえて頂いて、それにふさわしい方針を立てて頂ければと思っています。

### 小川洋さん（全国勤労者スキー協議会理事長）



全国スキー協は、先週第30回定期総会を行いました。全国スキー協は、現在会員が約3000名います。新たに奈良県でスキー協が創立することになり、新しい動きが起きていますが、会員拡大では当初目標にしていた

5000人には届かず、残念ながら低迷が続いているというのが現状になっています。今回の全国常任の特徴は、13人いる理事の中で、女性が4人になりました。今までは女性が一人しかいなかったもので、これも新しい動きと思っています。

全国スキー協は5年間震災復興春休み子どもスキー続けてきましたが、5年間の成果でいえば、参加した子どもは980人、集めたカンパは1200万円という活動をしてきました。感想文を見ると、「これから



もスキーをしたい」「来年も取り組んでほしい」「スキーをやることで人生に希望を持った」そういう感想がたくさん寄せられています。感想を読む度に涙が出ます。この5年間でやめるのは残念だなと思っています。

最後に、全国スキー協は2019年に50周年を迎えます。あと3年後、50周年に向けて新しいスキー協を作って行こうということで、いろんな取り組みを始めていきたいと考えています。

### 《討論のまとめ…出崎理事長》



全体で17人の方から延べ20回の発言があった。発言の中で報告と方針に対する反対意見はなかったと思う。ただ、こんな所を充実させてほしいという意見等があったので、まとめて触れたいと思う。

- (1) まず、行事の見直しを進めたら良いのではないかという意見があった。一番大きいのは越年スキーだが、残念ながら赤字を出してしまった、これについては方針の中で触れているが、行事の行き先、宿舎等を含めて見直しを行っていくという方向になっている。具体的な提案があったら常任理事会に寄せていただきたい。いろんな意見を参考にしながら行事の内容について詰めていきたい。
- (2) スキーを普及する行事を、という意見があった。これについては積極的に取組んでいきたいと思う。この中で特に取り上げられていたのは子どもスキーについてだった。マニュアル化、指導法をまとめてほしい、という内容だったが、これについては全国スキー協の協力もいただきながら、積極的に取組んでみたいと思っている。子どもスキーの行事をやっているクラブの人にも検討に加わってほしいと思う。
- (3) スキー修学旅行の講師の登録に関して積極的な取り組みを、との提案については、こなゆきの五十嵐さんから修学旅行のスキーというのはどういうものか、東京スキー協では登録に足る準備ができていないのではないか、登録した場合責任問題も出てくるという話があった。これについては、どういう形で会員に呼びかけていくのか引き続き検討していきたい。

- (4) 50周年行事について。スキー協の創立は1969年2月になるので、2019年に50周年を迎える。来年の総会でいろいろと具体的な提案ができるようにしたいので、皆さんのご意見をお願いしたい。

今年の総会では、新たな取り組みとして、クラブの通信を持ち寄っていただいた。10クラブから出され活動交流ができた。より豊かな活動につながるものと思う。その意味でも、広報局から要請のあった、クラブ紹介の原稿を出されていないクラブは、準備をお願いしたい。全体としてオフシーズン行事も含めて積極的に行事を展開しているなどというのが、今日の総会の発言だったと思う。ぜひ豊かな経験をさらに発展させて、東京スキー協の会員拡大、発展のために頑張ってください。

### 《討論…発言者順》

#### 長谷川保一さん（コロポックル）



少ない予算の中で一生懸命活動されていることはよく分かるが、移転等準備金から25万円を借入れという前提で予算を組むことになる、来年は移転等準備金がゼロになる。再来年は赤字になることが分かっているという非常に厳しい状況に置かれている。

これは誰が悪いということではないが、今年の正月行事で15万円の赤字になっている。行事の組み方をそのものを考える必要があるのではないか。去年もやったから今年もやろうではなくて、ニーズがそこにはないのであれば、昔はマイカーも無くて皆バスに乗って、バスの中で騒ぐこともまた一つの楽しみだった時代、今はそういう時代ではなくなっていることも想定しながら行事を組んでいく必要があるのではないか。

#### 福島 明さん（シーハイル・教育技術局）



教育技術局関係の方針が5点にわたって書いてあるが、もう少し具体的に、考えていることを紹介していきたい。まず1番の「指導員の理論研修の機会を増やす・・・」について、従来は指導員の理

論研修は、東京のスキーセミナーと全国スキー協の中央研修会、そして2年に1度の全国スキー協のサマーセミナーで、そのどれかに参加することになるが、スキーセミナーや中央研修会に行けない人はその年に理論研修を受けられないという実態がある。そこで、10月に予定されている関東ブロックの初・中級指導員養成座学を理論研修扱いにしたいと考えている。

2番目の「指導力量の向上のために・・・」については、まだ私案の段階だが、「指導員会議」というものを予定している。指導するとはどういうことか、指導上の悩み、工夫など経験交流の機会を持ったかどうかと考えている。

3番目の「テクニカルフェスタの内容の充実・・・」についてだが、48期活動報告に12月のテクニカルフェスタの中でアシスタントの講師を設けたと出ているが、若い女性の複数の講師を今度のテクニカルフェスタでは、ぜひお願いしたいと考えている。

スキー協の右肩下がりの停滞傾向から、右肩上がりにしていくためには、教育技術局がいろんな意味で頑張っていかななくてはいけないと思っている。皆さんの知恵と協力を頂きながら、一緒に進めていきたい。

### 大川真吾さん（みなとシュプール）



総会を前倒しして、東京の総会前に実施した。このまま低空飛行ではまずいと言われる、いくつか具体的に。まず去年の総会で作った協力員制度をさらに拡充したい。また、オフシーズンにも何かやろうと決め、ビヤパーティー、湯沢のかたくり荘を使っての合宿をやることにした。いつものファミリースキーツアーでは、地域的に隣のてんとおむしさんと協力し合って組織拡大をしていくことを目標にしている。

クラブの会員は6人だけだが、調べてみると社内にはスキーをやっている人が20人近くおり、やろうと思えば十分できるのではないかと思う。今まで及び腰だったが、頑張っていきたいと思っている。これまでクラブ行事優先の傾向があったが、認識を改め、東京スキー協行事にも意識的に取り組んでいきたい。

クラブの会員は6人だけだが、調べてみると社内にはスキーをやっている人が20人近くおり、やろうと思えば十分できるのではないかと思う。今まで及び腰だったが、頑張っていきたいと思っている。これまでクラブ行事優先の傾向があったが、認識を改め、東京スキー協行事にも意識的に取り組んでいきたい。

### 三浦紀子さん（モルゲンローテ）



会員2年目、生涯スポーツであるスキーに出合って良かったなという話をしたい。

小柳さんに誘われて春スキーのバスに乗り込んだらちょっと驚いた。髪の毛は白く、背中も曲がりという人が大半で、そのほかにお孫さんたちと思われる少年や少女たちがいて、先ほど年齢構成のことが話題になっていたが、20代～40代がとても少なかった。50～80歳までみたいなの、それにまずびっくりした。

この人たちは滑れるのかなーと思っていたが、実際にゲレンデに立つと、ヘルメットをかぶって、ゴーグルをして、ウェアは派手。ゴーグルをはずした時に、あの方がという状況でびっくりした。一緒に夜交流したりする中で、生涯スポーツというのはこういうことなんだなーと理解した。私もあとちょっとで赤チャンチョコがやってくる年齢で、指導員にはなれないと思うが、人の役に立てるようになれたらいいなと思っている。

初めて総会に出たが、どういうふうにしたら状況を変えて行けるのか、皆が安全で楽しく、働く喜びに繋がるようなスキー協、スキークラブになればなあと、世の中はスキーだけではないが、今日はスキーを考える出発点になったような気がする。

### 田畑 健さん（こなゆき）



毎年行っている平和スキーまつりと文京・台東正月スキーへのご協力をお願いするという内容で発言したい。来年の第11回平和スキーまつりは、2月18～20の3日間、志賀高原で行うことで準備を進めている。参加者は100名を目標にしている。ぜひ指導員の派遣と参加者の応募でご協力をお願いしたい。

また、今回34回を迎えた文京・台東正月スキーを、昨年12月30～1月2日の3泊4日で志賀高原で行った。参加者は28名で、驚いたことには、子どもが9人来た。これに年寄りも元気もらった。この行事の中で会員の拡大と、できればクラブを作りたいと思っている。

また、今回34回を迎えた文京・台東正月スキーを、昨年12月30～1月2日の3泊4日で志賀高原で行った。参加者は28名で、驚いたことには、子どもが9人来た。これに年寄りも元気もらった。この行事の中で会員の拡大と、できればクラブを作りたいと思っている。

方針案については基本的に賛成だが、この方針案の中で、組織の拡大と技術の向上というのが重点的に言われているが、もう一つ、組織の拡大と技術の向上を繋げることで、スキーの楽しさを広げることが非常に大事ではないかと思っている。これはスキーを普及するというテーマが大事だと思う。そういう意味で5回続けてきた東北復興支援春休み子どもスキー、私も今年は岩手と宮城の両方に行ったが、シェパールの皆さんのまとまった力というのは凄いなーと思った。

こういう子どもスキーを経験して、私なりに子どもスキーの指導法を一つ考えたが、ぜひ子どもスキーの指導法についての勉強会、できればマニュアル冊子みたいなものができればいいなと思っている。

### 油屋孝子さん（てんとおむし）



昨年も報告したが、千葉県在住の会員6名が船橋にスキークラブを作り、千葉県に3つのクラブが揃って千葉スキー協が結成された。その後も千葉スキー協の行事への参加などで応援している。併せてク

ラブとしての独自活動も、スキー行事オフ行事とも熱心に取り組んできた。

今期、やさしいスキー指導の効果で、クラブにぜひ入れてほしいと4名が入会した。入会した人の声を紹介すると、「このクラブの空気が好き」「行事が安くて楽しい」「無料で親切に教えてくれる」など。こちらから入会を勧めなくても会員が増えている。

そういう私自身もスキーは上手でなかったが、入会させてもらい、指導員の方に手取り足取り教えていただき、少し上達できたことを感謝している。今度は私自身がそういう立場に立ちたいので、指導員資格に挑戦したいと思う。

### 市川正幸さん（どさんこ）

数年前から苗場スキースクールからの要請で、何回か講師を手伝っていたが、今年スキー学校から、修学旅行生の講師が足りないのではとかならないかという相談を正式に受けた。修学旅行というのはスキーの経験がほとんどない生徒が多く、一般的なスキーを教えるというよりも、スキーの楽しさを伝えて今後もスキーに来てもらいたいというのがスキー

学校の想いだ。

3日間のコーチの仕方を含めて、いろいろなミーティングの中で、こういうことはダメですよ、こういう風にして楽しさを伝えてくださいとか、一定のアドバイスを受けるが、あとはコーチの采配で、安全にケガのないようにスキーをして、楽しく帰ってもらうというのが基本スタイルとなる。3日間の体験で滑れるようになって、スキーはこんなに楽しいものかと実感できたと、帰る日の朝、私に全員でサインした感想を述べたアルバムを届けてくれた。私自身も非常に指導冥利に尽きるという、すごく良い経験をした。

スキー学校からは、平日手伝いいただける方を紹介して欲しいという要請が来ているので、東京としても、活動できる人を登録してもらって対応したいと考えている。スキーの楽しさを若い人に伝えるというチャンスができたという気がするので、この総会の場で、そういうことをやるということで決議して頂ければ、ぜひクラブに持ち帰って、指導員に登録してもらえるように働きかけをお願いしたい。

### 長谷川かよ子さん（豊島・広報局）



広報局からのお願い。「私たちこんなクラブです」の連載をしているが、36クラブ中17クラブをこれまでに紹介してきた。全クラブの紹介を目標にしているので、まだのクラブは掲載に協力いただきたい。

年に1~2回、ホームページを見てか、東京スキー協に照会がある。ホームページに掲載できれば、そういう人たちへのクラブ入会のPRにもなるのでは。これからクラブ紹介の原稿を出されるクラブは、ぜひクラブの個性を強調していただきたいと思う。

### 長谷川保一さん（コロポックル）

今の状況の中からどういう風にクラブを作っていけばよいのか。その視点から発言したい。

みなさんいろんなクラブがテーマや個性を持ちながら活動していると思うが、似通った活動をしている方々も沢山いる。そこをもう少し束ねたら、もう少し大きな活動ができないだろうか。

また、行事を組織するとき、参加者を大きくするために力を注ぎ過ぎて、いざ本番になると疲れ切ってしまうということがないようにしないといけな



い。私は定年退職をした人たちを集めているが、旅行会社のパックをそのまま買った方が安い。3泊4日で35,000円、我々が宿や交通手段を押さえ、指導体制を組むということをやると、5万円くらい掛かってしまうだろう。

それから、子どもスキーというのは、基礎体力を損なわないようなスキー教室を持たなければいけない。そういうマニュアル化されたものがまだないと思うが、これはスキー協の得意な分野だから、経験している方々が集まって、マニュアル化する努力をして行けたらいいと思う。

### 小柳光雄さん（モルゲンローテ）



若い人にあるのは行動力、パソコンを含めてそういった技能、アイデアといったものは我々にはかなわない。

若い人に無いものは何かというと、時間、今若者は遊びに行くことすらできない、恋愛する時間もゆとり

もない。お金もない。我々に何が有るかといえば、多少お金はあるし、何よりも時間がある。経験も若い人よりはる。こういったものが何か伝えられたらいいなということで本題に入る。

モルゲンローテは1シーズン前に女性の指導員が誕生したが、クラブ総会に向けたアンケートで、今後指導員になってほしい人を推薦してください、という欄を設けたら名前が上がった人がでてきて、山本さんという女性が関東で落ちたが、頑張って関西で合格した。

うちのクラブでは、受検する人には旅費の補助をしている。2年に1度、指導員になった人が研修を受ける時も旅費の援助をしている。毎年の指導員登録料はクラブから出している。だからクラブにお金が残らない。今年も赤字になっている。赤字は、昔からやっていた越年スキー、春休みスキーの還元金をどんどん食いつぶして埋めてきたが、多分今年をもって全部なくなるだろうという状況。となると会費の値上げをしないといけないがこんどの総会で値上げを打ち出せるかどうか、という状況だ。でもやはり、クラブで指導員を受ける人、或いは指導員をとった人にもっと援助をしていかないといけないと思っている。

### 柴田 敏さん（スラローム）



私のクラブの平均年齢は57歳。（若い!!という声）若い人は入ってきていない。いま会員を拡大するにはどうしたらよいか。先程来ずっと悩んできたが、若い人はお金がなくてスキーができない。職場の若人たちは自分の世界を持っている。スキーなんてやらない、旅行なんていかない、いつも寝ている、こういう生活をしている若い人たちが多分多いのではないかなと思う。

ここ4年くらい（拡大できず）だんだん会員が減っているが、子育てが終わった50代、60代、70代という世代は意外に動けるのではないかな、誘いに乗ってくれるのではないかと最近思っている。

うちのクラブは、ハイキングや旅行など、いろんなことを毎月1回はやろうと考えているが、スキーはやらないが、ハイキング、テニスをやるという人は結構いるので、その人たちをなるべく引き込める行事をやって行こうかなと考えている。今のところ会員は増えていないが、若者たちを引き込んでスキーの楽しさを広げられればいいなと思っている。

### 五十嵐民夫さん（こなゆき）



市川会長から修学旅行の手伝いという話があったが、スキー修学旅行というのは、普通の募集しているスキー学校をやるのとは違いがあるということと話したい。

修学旅行というのは教育の一環で、学校の中の教育に位置づけられている。スキーが嫌いでもやらざるを得ない子どももいる。そういう子も含めて、心疾患とか、身体障害とか、日常生活の中で問題を持っている子もいる、全部含めて対応しなければならない。一般的にやっているスキー指導というのは、スキーをやりたい人で、上手になって楽しいというのが前提だが、修学旅行はそうはいかない。スキーがうまくなるというのも大事なことだが、安全で楽しいというのが当然のこと。何故なら教育の観点なので、ケガをしない、或いはケガをさせない指導が基本。怪我をすると学校の責任になる。子どもたちはほとんど初心者、1班通常10名、最近は少なくなってきたので6~7名、多い時

は10名以上になる。どういうインストラクターを付けるかが大切になる。

そのほか、天気・気象、地理・地形、雪の状態とか、寒い中で運動するというのはどういうことか理解する必要がある。レッスンする場所、滑るコース、どこを滑る、どこで止まる、こういったことを全部理解したうえで、登録してもらえば賛成だ。スキー協として応えられる準備ができているかということが一番大事。個人的にお願いするという時に、事故があった時にそのスキー学校の責任で何とかなるか。スキー協でということになると、スキー協の責任も絡んでくる心配がある。昨シーズン、広島であった死亡事故で、その団体の刑事責任が問われ、有罪になったケースがある。

最近多いのは、今の時期の野外活動、事故対策が行われている。起きてからではだめ、起きる前に何を準備するかが大事になってくる。初心者で最初リフトに乗せるまでに、どこまで到達しなければならいか、リフトの乗せ方、降ろし方、どこからどこまでどのくらい時間をかけて行けるかなどを考えに入れて、半日2時間～2時間半の中でどこまで進めるか、計画を立ててやっていく。そういうことを含めて、苗場スキー学校の要望に応じて頂きたいと思っている。

高校生だと2日間、中学生だと3日間、初心者でもパラレルができるまでやってくださいという要望が出され、それに応えなくてはならない場合も出てくる。できませんとは言えない、使ってもらえなくなる。どう応えるか。もしやるとすると、そういうレベルの心構えをもってやっていただければスキー教室の役に立つのではないかと思う。良いサポートができるようにしてもらいたい。

### 小川 洋さん (みなとシュプール・全国理事長)

全国スキー協はどういう方向に進んで行けばよいか、何が必要なのかということを考え直していく時期に来ているのではないかと思っている。全国スキー協もあと2年で50周年を迎える、そういう中で、良いものを引き継ぎ、その中で新しいものに挑戦していかないと、スキー協そのものが置き去りにされてしまうのではないかという心配がある。

全国総会の中の発言の中で、一番工夫しているところは、どうやって会員の要求をうまく実現するか、ということに、どれだけ役員の人たちが心を割けるか、そこにどれだけエネルギーを割けるかというのが大きな着眼点になっている。全国的なケースで

いえば、ホームページとフェイスブックの活用が広がっている。これまでネット通信が大分進化して来て、フェイスブック、SNSといったシステムが使いやすくなって来ている。こういったものをもっと活用すべきだと思う。全国スキー協としても、フェイスブック、SNSとかの活用方針というものを、通信とか学習会も含めてやって見たらどうだろうと思っている。

2つ目は、ブロック単位の行事、関西ブロック主催の親子スキーとか、北海道の場合は、全道が集まったの競技会とかフェスティバルがあるが、こういうところで行事が成功している。

東京でいえば、テクニカルフェスタとかスノーチャンボリーとかが有るが、スキー協主催行事に参加して、そこから新しいつながりができて、クラブが活性化しているというところが出てくる。クラブ行事にこだわりを持ちながらも、他のクラブと合同で行事をやろうとか、東京スキー協主催行事に参加してみようとか、という考え方もすごく重要ではないかと思っている。

3つ目は、50周年に向けて、教程の改訂をすることが総会で決まった。現教程ができて10年が過ぎる。全部変えるわけではないが、不適切な文章とか、写真が古かったりとか、そういうところも含めて改訂したいと思っている。またジュニアのマニュアル、シニアスキーのマニュアルとか、シニアやジュニアに対応したものを考えることにしている。併せて50周年のイベントを、基本的には60～70代の意見も参考にしながら、実行委員は20～50代からというように思っている。8月末に長良川でサマーセミナーをやるが、ここでも討論して50周年を考えていきたい。

最後に、クラブの中心にいるのは指導員。指導員が常にクラブのことを考えてそのためにどう動くかが大事。定期的に自分の足前がどういうレベルにあるのか、2～3年に1回、自分の技術レベルを確認することが大切、そういうことをする指導員が求められているのではないかと思う。

### 長谷川保一 (コロポックル)

指導員の定年制を敷けばよいということをして2年前に発言した。精神力、技術力、表現力、総合滑走能なり、年齢とともに低下してくるわけ。そして残念だが、精神的衰えとともに、自分の衰えに気が付かないまま、よその指導に行ってしまう。スキー協指導員のあるべき姿、自分自身の到達点を常にチェックすることは必ずやるべきだと思う。

おこがましい言い方だが、自分は2年に1度研修に参加しているが、その間の年はS I Aの学校に入っている。彼らの教え方と、スキー協の教程の違い、共通点、全てが有効とは言えないが、めいめいがそういう努力をしないとイケない。指導員を辞退する選択肢もある。指導員定年制を自分自身で考えてほしいと申し上げたい。

### 藤井一雄さん（エーデルヴァイス）



会員登録は18名、去年は22名だったが、会費納入がなく残念ながら4名減った。

クラブの年齢構成は60代が中心、メイン行事は年1回スキー祭典と称して行っている。今回で37回目となった。貸切バスを仕立て、

参加者が19名、会費4万円でやったが、赤字が10万円出た。今期は、テクニカルフェスタとか山スキーなどスキー協主催行事に積極的に参加した。

毎年新しい会員を迎え入れようと努力しているが、結果としては残念ながら新しい人は参加してもらえなかった。清瀬市の広報に案内を載せたり、近隣の東久留米市、新座市等の公共施設に会員募集の案内を出しているが、参加までには至っていない。

東京スキー協の今後の方針、テクニカルフェスタとかスノージャンボリーとか、今年は参加者が増えてきたことを踏まえれば、今後の方針が少し見えてきたと言えるのではないかと。今日、スキー協の方からも話があったが、全体として、技術を教えてもらえる場を大きくしてほしいと思う。あまり更新していないがホームページを持っている。ホームページを持っていないクラブに比べれば、うちのクラブは頑張っている方だと自画自賛している。

### 芦田 潔さん（シュプール）



組織拡大と子どもスキーについて発言したい。我がクラブは国分寺市を中心に活動している。市の広報に年1回PRを載せている。ホームページもやっているが、個人情報の扱いに気を付けなければいけない。ホームページを見て、毎年会員が入ってくる。

会費は5000円、毎月機関誌を郵送している。行事

収入で補っているので赤字にはならない。機関誌を見て会員が繋がっている。

スキー仲間が減って、一人ぼっちになりかかっている。子どもスキーで指導を担当して思ったことだが、初めての子どもたちには、プルークの内向ターンが、加速もされないし良い方法だと思う。嬉しい顔をして帰る子どもたちを見てほっとした。

### 奥屋和俊さん（雪けむり）



2009年に創立したクラブ。今度第10回総会を迎える。今40名の会員登録。“会員自らが楽しいスキーをやる”がクラブのモットー。

9月から5月まで定例会を月1回開催、12月から毎月合宿、分担しあって取り組んでいる。12月は初すべり、1月は八方で新雪を楽しむ、2月は野沢で深雪を楽しむ、3月は志賀でオールラウンドで楽しむ。そういう自分たちが楽しくないと外の人に伝わらない。

機関誌を出していないし、募集もしていない、全部口コミで会員を増やしている。事務局がニュースをメール配信している。例会出席は30人超、二次会も大いに楽しんでいる。

### 本多賜代さん（シーハイル）



10代、20代の大学生を会に迎えたということで大分注目されていると思うが、これには裏話があって、実のところ、3人は私の甥っ子たち。私の姉がスキーをやっていて、その関係で子どももやっていて、子どもが大きくなってきて、上手になりたいという要求から一緒に行こうということになった。スキー協は競技会やスクール等をやっており、いろんな人とのコミュニケーションも大切ということでクラブに入った。大学生は一人で入るよりも、同世代がいると楽しいし、一人だけで会員と年齢が離れてしまうと続かないと思う。若い人がクラブに入っていないというのも、多分一人では入らないと思うので、まとめて取り込んでみたら少し残るのではないかと。同世代同士のコミュニケーションが必要となってくることもあると思う。



大学生の子たちは、いつまで続くか分からないが、これからは継続させることも活動になってくると思う。オフシーズンの活動など、新しい企画を考えていきたい。

### 末広明美さん（スラローム・競技スキー委員会）



教育技術局からの事務連絡、指導員登録は9月末までに全国に出すので、9月中旬までに出してほしい。

本題、競技スキー委員会に所属しているが、競技スキー委員会という名前なので競技スキーだけと思われるが、基礎練習もやっている。合理的に安全に、気持ち良く滑れるようになるので、興味がある人には有効だと思う、ぜひ参加してください。

### 長部保雄さん（三多摩山スキー・山スキー委員会）



山スキー委員会の委員をしている。今年は雪が少なく、山スキー行事の中止があったが、湯の丸と鳥海山は山スキー教室ができた。八甲田はゴールデンウィークまで、鳥海山は6月まで滑ることができた。

山スキーをクラブ行事として、計画してほしい。

幹部がやる気になれば、そのクラブはやる気になる。クラブで新しいものに挑戦してほしい。山スキーは来年もいろいろやりたいと思っている。山スキーに興味のある人がいたら、山スキーの集いとか、山スキー講座、山スキー教室に送り出して頂きたい。併せて山スキー教室参加者への配慮もお願いしたい。

## “スポーツをする権利”を みんなで行使しよう

東京スキー協 理事長 出崎 福男

## リレーエッセイ 雪紋

東京スキー協の総会から約1か月、暑い夏です。この時期こそ頭をクールにして、秋から冬、雪の降る来シーズンのことをじっくりと考えてみませんか。

2011年6月にスポーツ基本法が制定されました。前文に「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利」とスポーツ権が明記されました。スキー協や新日本スポーツ連盟の先輩たちが訴え続けてきたことが実った、画期的な出来事でした。それから5年が経ちました。東京オリンピックの招致、湯沢苗場ワールドカップの開催と、明るいニュースもありますが、一方で公共スポーツ施設の統廃合や利用条件の悪化など、「すべての人々の権利」を現実のものとするとは逆行するような動きもあります。

こうした中、私たちの活動はどうあるべきで

しょうか。総会の中では、「子どもスキーなど、スキーの普及にもっと力を入れるべき」との意見もありました。東京スキー協や加盟クラブのスキー行事はどうあるべきでしょうか。「例年通り」ということだけでなく、会員の要求にこたえ、会員が行事への期待に胸躍らせ周囲の人々にも参加を呼びかけていく、そんな行事を目指したいものです。指導員の方は、クラブ内だけでなく、クラブに加入していない人々と一緒にスキーに行き、ビデオを撮ってあげたり、ワンポイントアドバイスしたりして「スキーが上達する楽しさ」を広めてはいかがでしょうか？

今期総会方針の柱は、組織拡大と技術向上です。それを支えるのは、スキー協・クラブの民主的な運営とこまやかな心遣いだと思います。冬に向けて、さあ準備を進めましょう。

# 「私たちはこんなクラブです！」

## シーハイル スキークラブ

### Answer

### Question

- ① クラブは創立何周年、会員は何人ですか。
- ② クラブの自慢できることをひとつ教えてください。
- ③ クラブ運営を成功させる秘訣はなんだと思いますか？
- ④ あなたのクラブを一言で表現してください。（それはなぜですか）

- ① 1968年1月創立（今期50周年を迎えます） 会員17名/会友4名
- ② **20代の会員が3人**います！
- ③ 「**1ヵ月に1回は集まろう**」を合言葉にハイキングやボウリング、ときに飲み会などスキー以外でも気軽に集まっている。クラブの事務所を有効に使い、例会や運営の作業も楽しみながらできている。
- ④ **継続は力なり**（いいときも悪いときもマイペースで）



\* スキー協の行事での技術指導や競技大会での活躍など、スキー協の活動にも貢献しています。（広報局）

## 全国スキー協主催 サマーセミナー in 長良川 50周年に向けて前進を開始しよう！

日程：2016年8月27日（土）/28日（日）

会場：長良川スポーツプラザ

〒502-0817 岐阜県岐阜市長良福光 2070-7 TEL：058-295-6300

参加費：10,000円（宿泊代、交流会費、資料代、その他）

講義の内容：

体幹トレーニングで傷害予防（プロスキーヤー 清澤恵美子さん）

ノルディック・ウォークセミナー（クレブスポーツ 吉田武史さん）

ブーツ相談会/チューンナップ実演・最新アイテム紹介（クレブスポーツ 吉田武史さん）

教程改訂の方向性と進捗状況（全国スキー協 技術・教育局長 荻原正治さん）、指導員関連徹底討論会…50周年をみんなでどう迎えるか

分科会…ジュニア行事経験交流会/第1回スキー協50周年実行委員会

# ニュージーランド ヘリスキー紀行

菱沼 正義（こなゆき）

フェローNZ初すべりスキーツアー3日目の7月11日（月）私は初めてのヘリスキーを桑木野さんとツアー参加者とで楽しみました。クイーンズタウン近郊のスキー場は2日間雪不足で期待していたオフピテ滑降は不可でした。夕方ヘリスキーの説明を受け参加を決めました。

クイーンズタウン市内の宿泊ホテルから車で20分の空港から、8人乗りセスナ機約1時間の飛行で国立公園内にあるマウントクック空港に9時40分到着。

セスナからは、木が殆ど無く、頂上付近にだけ雪がある高く険しい山々と人家も無いNZ独特の風景が楽しめ、遊覧飛行そのものでした。

ヘリスキー基地の標高約700mマウントクック空港で、自分のスキー技量を申告し誓約書にサインした上で、料金を支払い4名毎のパーティが決まります。私と桑木野さんと60歳の上級者2名でした。参加者12名全員でビーコンの使用方法を探索モードも実施、ゾンデ棒、スコップの使用法についてガイドの実演、説明があり、山スキーそのものでした。ビーコンを全員装着し、ゾンデ棒とスコップ入った小型ザックを4名グループでは私が背負いました。

ヘリは重量制限があるので、余分な荷物は持ち

込み禁止です。天候は薄曇りで風は無く気温は-4度。目の前は3754m最高峰マウントクックを始め2000m以上の山々が連なるサザンアルプスの迫力ある景色でした。雪は山々の上部にあるだけで、滑る場所は大丈夫なのかと思いました。

午前11時にヘリが4名を乗せてスタート。標高約700mの空港から一気に標高約2400mの尾根の狭い雪上（約3㎡）に着陸し、プロペラを回転させながら人とスキーを素早く降ろし、すぐ飛び立ちます。向側の山肌に青白い氷河が見える息を呑むような絶景を楽しみました。ガイドから滑降についての簡単な注意事項（特に雪の状況確認と間隔を取ること、許可するまでガイドの前に出ないこと）等を受けて滑降開始しました。

しばらく山に降雪が無かったので、新雪ではない急斜面の出だしでも、意外と恐怖は感じませんでした。標高差約800~1000m、距離約1~2kmを転倒だけに注意して、気持ち良く滑り降りることができました。

標高約1400~1500mの地点で、迎えに来たヘリに再搭乗し、岩山の肌を舐めるように飛ぶヘリからの景色も楽しんで、午前中3本、午後2本の計5本（2本は同じコース）の滑降を楽しみました。山の雪上でのランチは、サンドイッチ、りんご、パイ、コーヒーが格別に美味しく感じました。午後からは太陽が顔を出して雪面の凸凹もはっきり見えてきて格段に滑り易くなりました。15時にヘリポートに戻りあつという間の、約4時間のヘリスキーが終了しました。セスナでクイーンズタウンに戻り、ホテルには16時30分頃戻りました。

マウントクックヘリスキーは、雪の状態とスキーヤーの技量を考慮して、300以上あるコースから条件に合ったコースを選択しているとのこと。ガイドは国際山岳ガイド連盟またはNZ山岳ガイドのスタッフが努めるので、安心、信頼できるようです。また希望があれば条件によってヘリ追加もOKです。

再び機会があれば、今度は是非新雪深雪の斜面を滑りたいと思いました。満足のヘリスキー体験でした。





# information

## 総務局より会費の早期納入のお願い

東京スキー協の会計年度は5月1日からとなっており、既に家賃等の支出が発生しています。既に総会を終えているクラブも多数あると思います。スキー協の会費につきましては、9月20日の締め切り前に、できるだけ早く納入して頂きますよう、ご協力をお願い申し上げます。

※「会員登録」、「指導員登録」について後日担当局より案内を送ります。

## 2016 スキーセミナーを開催します

スノースポーツを多面的に学んで、シーズンを迎えよう

◆日 程：2016年9月24日(土) 13:15～16:50

◆会 場：豊島区立生活産業プラザ（旧名称：エコ豊島）

◆参加費：1,200円（事前申し込みなしの場合1,500円）

テーマ1：「指導員の役割・権利・義務、指導とは、スキーの安全について」

東京スキー協 教育技術局長 福島 明さん

テーマ2：「教程改訂の方向性と進捗状況」（仮題）

全国スキー協 技術教育局長 荻原 正治さん

テーマ3：「日本のスキー業界の現状とスキー協に期待するもの」（仮題）

株式会社クレブ 取締役会長 岸野 悦雄さん

## 8・9月のカレンダー

8/2	山スキー委員会	9/1	常任理事会
8/4	常任理事会	9/3-4	山スキー部会（全国）
8/9	通信発送/総務局会議	9/6	山スキー委員会
8/23	広報局会議/組織局会議	9/15	指導員受験説明会
8/27-28	サマーセミナー（全国）	9/20	広報局会議
8/29	通信発送/総務局会議	9/24	スキーセミナー
8/31	教育技術局会議	9/25	全国競技部会
		9/27	通信発送/総務局会議/組織局会議
		9/28	教育技術局会議

### 編集後記 **エビノシッポ**

通信再開しました。スキー協の会員、お給料、貯金、国民の消費、、、大きく増やすのは難しいご時世ですが、身近なところであらためて小さな目標を立てました。「私たちはこんなクラブです！」掲載クラブの拡大…。しつこいと言わずご協力お願いしまーす。(H)